

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成23年5月9日（月）～5月15日（日）〔平成23年第19週〕の感染症発生状況

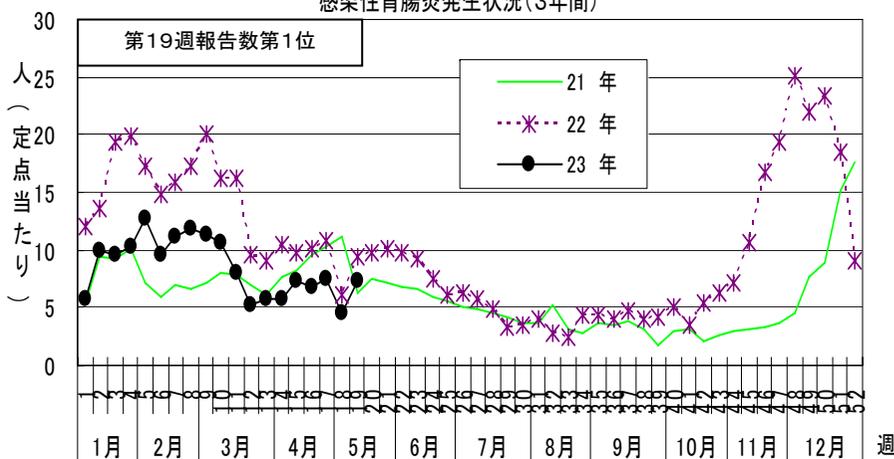
第19週で定点報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎は定点当たり7.36人と前週（4.61）より患者報告数は増加していますが、ほぼ例年並みの推移となっています。

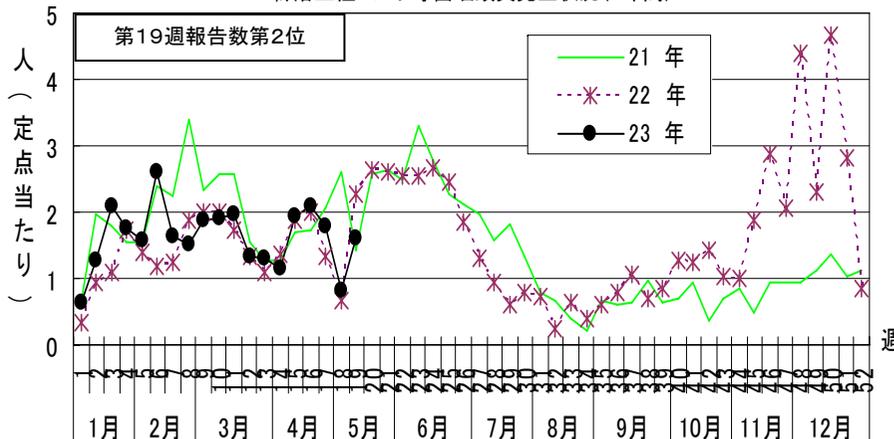
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.61人と前週（0.82）より患者報告数は増加していますが、例年を下回るレベルで推移しています。

細菌性赤痢の発生届が1件[感染原因：経口感染、感染地域：モロッコ]ありました。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



風しん患者が増加しています！！～ワクチン接種を～

平成23年は、川崎市内において風しん患者の届出件数が増加しており、平成20年のデータ収集以降で最も多いペースです。右下のグラフのとおり、5月17日現在までで7件の届出があり、例年を上回っています。流行は春先から初夏にかけて多くみられるため、今後も引き続き注意が必要です。

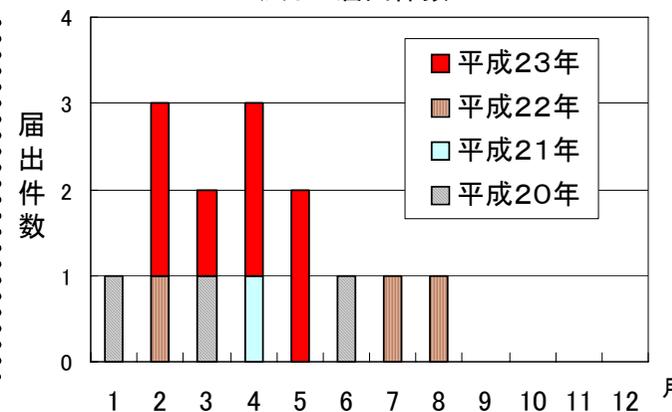
風しんとは！？

風しんウイルスによっておこる感染症で、潜伏期間は約2～3週間です。

主な症状として発疹、発熱、リンパ節の腫れが認められます。ウイルスに感染しても明らかな症状が出ないまま免疫ができてしまう方もいます。一度かかると、大部分の人は生涯風しんにかかることはありません。

風疹ウイルスは患者の飛まつ（唾液のしぶき）などによって他の人に感染します。感染力は、麻疹（はしか）や水痘（水ぼうそう）ほどは強くありません。

風しん届出件数



先天性風疹症候群って何！？

風しんの症状は子どもでは比較的軽く、大人がかかると発熱や発疹の期間が子どもに比べて長く、関節痛がひどいことが多いとされています。さらに、妊娠初期の女性が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、そして精神や身体の発達の遅れ等の障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらの障害を先天性風疹症候群といいます。その対策として、妊娠される前に予防接種を受けることが最も効果的です。（妊娠中は風しんの予防接種を受けることはできません）